

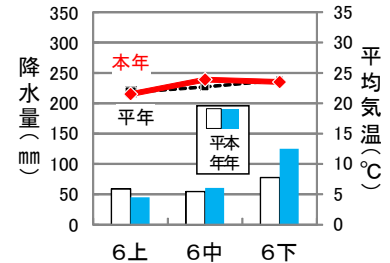


# 農作業一口メモ (平成28年7月号)

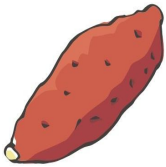
鳴門藍住農業支援センター  
鳴門藍住地区農業生活指導班会

## 気象 <四国地方 1ヵ月予報(7月2日~8月1日)>

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

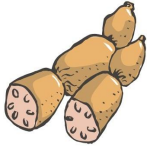


## かんしょ <温度管理と水管理に注意しましょう>



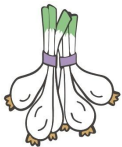
7月になると、シロイチモジヨトウやハスモンヨトウの発生が多くみられるようになります。孵化直後の幼虫の時期が薬剤の散布適期です。早すぎても効果は少ないので、地域、地区ごとに一齐に防除するのが効果的です。また、同じ薬ばかりでは効き目が落ちるので、何剤かをローテーションで使用しましょう。

## れんこん <イネネクイハムシの防除について>



イネネクイハムシは6月下旬頃から成虫が産卵し、幼虫はレンコンの根を食害します。発生が懸念される場合は、早めの防除を行いましょう。腐敗病多発田では、水温の上昇を低減するため、葉が水面を覆うまでの間、深水管理としましょう。

## らっきょう <ネダニおよび赤枯病対策について>



「ネダニ」や「赤枯病」は種球による持ち込みが発生の主因となっており、この時期の対策が最も重要です。充実した清潔な種球の天日乾燥、薬剤浸漬を励行し、病害虫寄生密度を下げましょう。また、必要に応じ、土壤消毒、土壤の酸度矯正を行い、次作の良好な生産につなげましょう。

## 水稲 <水管理および肥培管理について>



1株当たり15~20本の茎数が確保できたら、小さなひびが入る程度を目安に、中干しを行いましょう。中干しを行うことで、無効分けつの発生が抑えられ、根張りが良くなり、収穫などの作業もやりやすくなります。  
肥培管理については、肥効調節型の肥料を使っていない場合、生育状況に応じて穂肥を施用しましょう。

## 農薬危害防止運動について

農薬の使用に伴う人や家畜への危害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月にかけて「農薬危害防止運動」が実施されます。  
農薬による危害を防止するため、次のとおり忘れずにチェックを行ないましょう。

- ① 農薬散布前にはラベルをよく読み、使用方法・注意事項等を確認して下さい。
- ② 農薬散布時には防護装備を着用するとともに、散布作業後には全身をよく洗って下さい。
- ③ 炎天下での長時間の散布は避け、朝夕の涼しい時間に作業して下さい。
- ④ もし農薬散布後に気分が悪くなった場合には、速やかに医師の診断を受けて下さい。
- ⑤ 農薬は鍵のかかる場所で適切に保管して下さい。

## な し <防除を徹底しましょう>



本年度は、昨年秋の悪天候から、例年より多く黒星病が発生している園がみられます。来年度に持ち越さないためにも徹底的に防除しましょう。また、防除暦には、黒星病、輪紋病、ダニ類、シンクイムシ類様々な病害虫に対応したものとなっていますので、防除暦に準じた防除を心がけましょう。

## も も <着色管理について>



梅雨が明けて乾燥が続く場合は、かん水を行いましょ。果実の着色は、果実への日照により促進されます。枝への支柱、徒長枝の処理、摘葉、反射マルチに利用等により着色管理を行いましょ。

## か き <仕上げ摘果を行いましょ>



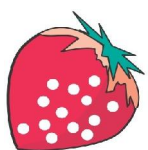
7月に入ると生理落果が落ち着いてきますので、仕上げ摘果をする時期になります。1結果枝1果を基本とし、1果当たり葉数は10~20枚になるようにします。梅雨が明けて乾燥が続く場合は、かん水を行いましょ。

## えだまめ <温度管理と水管理に注意しましょ>



開花期から結実期に土壌を乾燥させると着莢数が少なくなりやすいので、早めに灌水して下さい。収穫間近になったら灌水量を増やして、子実の肥大を図りましょ。収穫適期は短いので、過熟にならないうちに収穫して下さい。早朝涼しいうちに収穫し、品質を保つために冷蔵庫で保管して下さい。

## いちご <「さちのか」の管理について>



炭そ病対策として、定期的な薬剤散布に加え、高設ベンチ、雨よけ、点滴かん水を利用して雨や水のはね返りを防ぐこと、必要以上に窒素を与えないことが重要です。また、ランナーの切り離しや余分なランナーの除去、下葉かぎを早めに行い、育苗床の風通しを良くしましょ。発病株や苗を切り離した後の親株は、早急に処分しましょ。

梅雨明け後は、寒冷紗等を使用して高温対策を行います。ハダニの発生が予想されますので、初期防除を行い、健全な苗の育成に努めましょ。

## ~熱中症の予防には「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です!~

これから夏本番になり、暑い日が続きます。農作業時の服装は帽子を着用し、風通しの良い涼しい服装を選んでください。また、休憩をとりながら十分な水分補給を行ってください。なお、別添の熱中症予防チェックシートを参考にして日々の体調管理に努めてください。

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

[http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/)

※お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515